

「環境先進都市の創造に向けた議員懇談会」議事録

参加政党 まちだ新世紀と諸派

参加議員 渋谷氏、市川氏、新井氏、佐藤氏、若林氏、三遊亭らん丈氏

場所 市民フォーラム視聴覚室

日時 10月9日（金） 16時から17時30分

議 ゼロ・ウェイストに異論を唱える人はいない。皆さんの活動に敬意を表している。

都市部で実践することは価値がある。

議 町田でゼロ・ウェイスト宣言をしたいと思っている一人である。実現するために市民の理解を得ることが大切。

議 我が家も電動生ゴミ処理機を使っている。子供の頃は畑の片隅で処理していたものだ。

議 町田市の理念を、理念条例にして、その成果が宣言つながることが望ましい、それが町田市の価値観になり、うらやましく思われるような魅力につながる。

議 スーパーに買い物に行って、マイバッグを忘れた時恥ずかしいと思うほど浸透してきている、三和小山田店のノーレジ袋の影響は大きい。電動生ゴミ処理機の助成をやめる自治体が出てきている、資源型の難しさ、乾燥型の資源化の問題も浮かび上がってきている。都会における大型生ゴミ処理機に関しては設置場所の問題もある。

議 ゼロ・ウェイストが市民から発し、NPO 法人になったことは素晴らしい、町田市独自の市民協働という活動が出来れば良いと思う。

* 先ほど乾燥型生ゴミ処理機の話がでたが、窒素を振りかけることで資源化できることを知った。東京農大では全く菌を使わない乾燥型のプラントを使って【みどりくん】という肥料を作っている。すでに京王デパートで出た生ゴミを屋上で堆肥化する実験もしている。ゼロ・ウェイストの会も各種生ゴミ処理機から出来た一次生成物 16 検体を東京農大に送った。

* 生ごみ処理機は今までバイオ方式がベストだと思っていたが、認識を改めるべき事柄も出てきている。

議 ゴミが有料化になっても、紙等の資源が未だ大量に捨てられているのは驚き。

* 横浜市は G30 の実施にあたって、市民に年間 1 万回の説明会をしたという。町田市は生ゴミ処理機のメンテを市民に任せている。

* せつかく税金を投入するのだから、管理責任を明確にし、有効に使うべきだと思う。

議 民生委員すら集まらない現状の中で、地域で生ごみ処理機の面倒を見る人材の確保は厳しいものがある。

議 市職員の意識にはばらつきがある。ゴミ行政に関しては単純労働者と思いついでいる職員が多いのではないかと、多様性があるから仕方が無いと思ってしまう、工夫や変えていこうとする積極性が無い。

- * 市民協働といいつつも、職員自身が所属する部全体の把握（予算等の）をしていない。
 - * 老朽化した焼却炉を目にして、ごみの減量をすることによって、最小限の炉の建設に止める努力をするという、市民への意識付けをしていることに感心した。
 - * 市民と行政の関係はなかなか難しいものがある。
- 議 職員の任期が短いので、短時間にモチベーションを上げなければならない、それも個人差があるので難しい面もある。
- 議 行政はごみの現状を評価し、信頼関係を強化し、見える形で市民を説得していかないと、市民も本気に取り組む努力をしないのではないか。
- * ごみ減量のための予算となるのは、有料ゴミ袋の代金が当てられると思うが、
- 議 ゴミ袋代金は経費を差し引いた後、基金として積み立てられているが、やや不明朗な面があるので、明確にしていく。
- * 減量の施策がないと、基金も積みあがっていくばかりなので、値下げの要求も出かぬない。
- 議 ゼロ・ウェイスト宣言については、会派の中では共通認識は持っている。
- 議 ゼロ・ウェイストは理想で、目指すべきゴールだが環境はまだ成熟していない。
- 議 「農と緑の構想」も動き出しているが、基本的なビジョンを持つ必要がある。単にあれもやりました、これもやりましたで終わらないためにも。
- 議 ゼロ・ウェイストを通じて「もったいない」を広め、これまでの、大量生産、大量消費の見直しを次世代に伝える。
- * 江戸時代はリサイクル社会で、日本が一番進んでいたはずだ。市民の意識改革は難しいかもしれないが、タバコへの認識も 10 年前に比べれば覚醒の感がある。
- 議 レジ袋廃止に取り組んだ三和さんに感謝状を贈るなど、ゼロ・ウェイストに取り組んだ企業へのインセンティブも含め積極的な評価をする必要がある。